

社会に関心を持たせる新聞記事活用のあり方の検討

宮崎市立櫛中学校

教諭 佐藤 省吾

1 研究主題

社会に関心を持たせる新聞記事活用のあり方の検討

2 なぜ新聞記事を活用するのか

新聞記事を活用した授業を行う理由は、次のような現象が見られるからである。

- ① 新聞を読まない若者が多い。
- ② 社会に関心を持たない若者が多い。

①について、浜野崇好氏は言う¹⁾。

近年、若者が新聞を読まなくなったと言われる。正確なことは分からないが、この何年か、授業等で接触してきた大学生について言うと、何か課題を与えて小論文形式で書いてもらうとき、まず、新聞や書物を探すより、インターネットで情報を得ようとする学生が圧倒的に多い様子だ。

②について、「第7回世界青年意識調査」を見ると、「社会に不満を持っているが、政治には関心がない」という日本の若者の意識を読み取ることができる²⁾。

このような現象は、社会科の教師として危惧すべきことで、解決しなければならないという課題意識をもった。そして、新聞記事を活用した授業を行い、社会に関心を持つ生徒を育てたいと考えた。

なお本研究は、宮崎市立櫛中学校の2年生を対象に、社会科の時間に実施した。期間は9～12月の4カ月間である。

3 どんな生徒か

本校生徒に、「あなたは、新聞(ラジオ・テレビ欄以外)を、1日平均どれくらい読んでいますか」という調査を、事前に実施した(表1)。

新聞を「ほぼ読まない」生徒と「読む生徒」の割合は、7:3である。読む生徒でも、ほと

んどが1日平均10分未満である。

表1. 新聞を読む時間(1日平均)

読む時間	割合
ほぼ読まない	69.7%
1分以上 5分未満	12.1%
5分以上10分未満	12.1%
10分以上15分未満	6.1%
15分以上20分未満	—
20分以上	—

(備考) 2008年9月調査。第2学年のある1学級の生徒を対象に調査をした。調査日に出席していた生徒は33名。

2005年度「N I E効果測定調査」結果報告や「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」と本校生徒を比較すると、次のような本校生徒の実態が分かる。

- ① 本校生徒は、新聞を「ほぼ読まない」生徒の割合が多い。
- ② 本校生徒は、新聞を読む生徒でも、読む時間が短い。

4 どのように新聞記事を活用したか

上記のような生徒の実態を踏まえ、少しでも多くの生徒が新聞を読むようになり、そして社会に対する関心を高めるために、次の2つの取り組みをした³⁾。

(1) 新聞を読むようになるために

少しでも多くの生徒が新聞を読むようになるために、社会科の毎時間に次のようなことを取り入れた(5分程度)。

- ① 「今朝の新聞(1面)のトップ記事は、何でしたか。」と発問をする。
- ② トップ記事を見せ、記事の概要を教師が説明をする。

例えば、12月19日(金)の授業は、次のような流れでおこなった。

教師 「今朝、新聞を読んできましたか。読んだ人は、手を挙げなさい。」(読んできた生徒は挙手をする。半数の生徒が挙手をした。)

教師 「今朝の新聞のトップ記事は、何でしたか。」(生徒は、挙手をする。)

教師 「ではA君。」(挙手をした生徒を当てる。)

A君 「ガンバ大阪がマンチェスター・ユナイテッドに負けたことです。」

教師 「スポーツ新聞は、それだったかもしれないけど、私が持ってきた毎日新聞のトップ記事は違ったなあ。」(生徒が挙手をする。)

教師 「Bさん。言いなさい。」(挙手した生徒を当てる。)

Bさん 「車のことです。」

教師 「おつ、いいねえ。車のことが載っていました。車がどうしたんだろうね。」(生徒が挙手をする。)

教師 「ではCさん。」(挙手した生徒を当てる。)

Cさん 「車が売れなくなっているということです。」

教師 「そうです。国内の新車の販売台数が減っていることが載っていました。今、急に販売台数が減ってきているそうです。どうしてかなあ。」(生徒が挙手をする。)

教師 「D君。」(挙手した生徒を当てる。)

D君 「金融何とかのせいです。」

教師 「何とかではなく、金融何かなあ。」(生徒の間から、「金融危機」という発言がある。)

教師 「その通り。金融危機の影響でしょうね。」

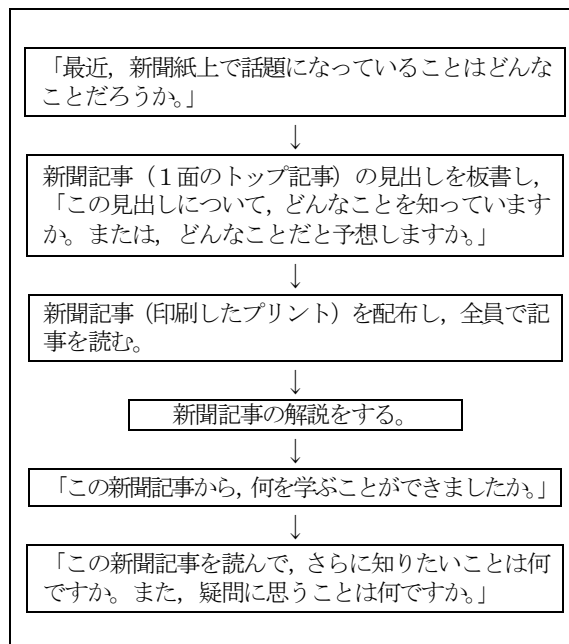
この後、教師がトップ記事を読み、説明をした。

(2) 社会に対する関心を高めるために

社会に対して関心を持つということは、どういふことか。『中学校学習指導要領解説 社会編』には次のようにある⁴⁾。

「社会に対する関心を高め」は、社会科の特質を踏まえて学習の過程を大切にし、生徒自ら社会的事象を見だし、それについて課題を設定し追究する学習を重視するとともに、学習を通してさらに関心が高まることなどを目指す意味である。

今回の取り組みでは、生徒が「〇〇は何だろう」とか「どうして〇〇になったのだろうか」「これから〇〇はどうなるのだろうか」といった課題意識を持つようにならなければならない。そのため、「適切な課題を設けて行う学習」として、1つの新聞記事を詳しく学習する授業を実施した。



資料2. 授業の流れ図

「新聞を読んでみよう」(新聞 月 日付)
2年 組 番 氏名 _____

- 最近、新聞紙上で話題になっていることは?
- 新聞の見出しを見て…
◇どんなことを知っていますか?
◇どんなことだと予想しますか?
- この新聞記事から、何を学ぶことができましたか?
- この新聞記事を読んで…
◇さらに知りたいことは何ですか。
◇疑問に思うことは何ですか。

資料3. ワークシート

	新聞社<月日>	見出し
1	読売新聞<10月31日(金)付>	衆院選 年内見送り 首相表明 3年後消費税上げ
2	宮崎日日新聞<11月7日(金)付>	トヨタ営業利益7割減 1兆円下方修正
3	毎日新聞<12月8日(月)付>	麻生内閣支持 激減21% 15ポイント減 不支持58%

資料4. 活用した新聞記事

その授業の流れ図及び授業で使ったワークシ

ートは、それぞれ資料2、資料3である。また、この授業は3回実施した。その際、活用した新聞記事は資料4のとおりである。

ものの新聞を読む生徒が増えていること、新聞を15分以上読む生徒が増えていることが分かる。

このことから、新聞を読む生徒が増え、読む時間も増えていることが分かる。

5 この取り組みは有効であったか

(1) 新聞を読むようになったか

「3 どんな生徒か」で調査をした同じ学級で、1月に同じ調査をした(表2)。

「ほぼ読まない」が18.2ポイント減少している。読む生徒が増えていることが分かる。

また、「10分以上15分未満」が3.1ポイント減ったものの、「1分以上5分未満」と「15分以上20分未満」が、それぞれ15.2ポイント、6.1ポイント増加している。読む時間は少ない

表2. 新聞を読む時間(1日平均)

読む時間	割合	増減
ほぼ読まない	51.5%	-18.2ポイント
1分以上 5分未満	27.3%	+15.2ポイント
5分以上10分未満	12.1%	増減なし
10分以上15分未満	3.0%	- 3.1ポイント
15分以上20分未満	6.1%	+ 6.1ポイント
20分以上	—	—

(備考) 2009年1月調査。調査日に出席していた生徒は33名。

	第1回	第2回	第3回
	衆院選 年内見送り 読売新聞<10/31>	トヨタ営業利益7割減 宮日新聞<11/7>	麻生内閣支持 激減21% 毎日新聞<12/8>
U. S君	◇1人 15000 円給ふはばらまきに思えるので、もっといい方法はないか知りたい。 ◇なぜ消費税を上げないといけないのか。	◇1ドルいくらというのほどのようにして決まるのかを知りたい。 ◇トヨタのように同じような損をしている会社はあるのか。	◇支持率を上げるためには、どのような改革をすればよいのか。
S. K君	◇アメリカの経済について知りたい。	◇トヨタは日本でどれだけ生産しているのか。 ◇またその何倍、海外に輸出しているのか。	◇何で首相だと漢字をまちがったらいけないのか。
T. Y君	◇アメリカの経済はどうなっているのか。	◇トヨタがどれだけ売っていたか。	◇なぜ自分から日本人たちからきらわれるような問題発言をいうのか。
I. Eさん	◇なぜ、大胆な行政改革のあとに、消費税を上げるのか。 ◇どのように第2次補正予算を成立させるのか。	◇なぜ、「プリウス」の全面改良などで、巻き返そうとしているのか。 ◇どのようにして、期間従業員を半減させるのか。	◇麻生さんを支持すると答えた人はなぜ支持するのか。 ◇「どちらもダメ」という意見の人は、どうすればよくなると考えているのか。
K. Rさん	◇なぜ、3年後なのか。 ◇消費税を高くする必要があるのか。	◇株式とは一体どんなものか。 ◇なぜ毎回変わったりしているのか。 ◇外国に負担はないのか。	◇なぜ小沢さんの方が人気なのか。 ◇なぜ支持率がそんなに下がってしまったのか。 ◇支持してもらうには今からどんなことをしていかなければならないのか。
M. Yさん	◇どうして「安心子ども基金」設置しようと思ったのか。 ◇どうしてこんな大変な時期に「世界最先端の研究開発」しようと思ったのだろうか。	◇日本は円高によって得ばかりしているけど、日本の円高により得をしなかった国はどこなのだろうか。	◇小泉元首相のときの世論調査を知りたい。 ◇今、国民が首相に何を求めているのかを知りたい。 ◇麻生首相も小沢代表も首相に向いていないと思うのなら、だれが首相になることを望んでいるのだろうか。
Y. Mさん	◇どうして高速道路の料金を引き下げようと思ったのか。	◇どうして円高が続いているのか。 ◇トヨタは、どうして世界各国で売上げを伸ばすことができるのか。	◇なぜ、問題発言や漢字の読みまちがいが繰り返されるのか。 ◇支持率を上げるためにこれからどのようなことをするつもりなのか。 ◇国民の意見をもっと聞こうとしないのか。

資料5. 生徒の書いた内容

(備考) 生徒の書いた内容をそのまま載せる。そのため、誤記・誤字がある。

「3 どんな生徒か」で調査をした同じ学級から、無作為に7名の生徒を選んだ。

(2) 社会に対する関心を高めたか

社会に対する関心を高めることができたか。3回の授業で書かせたワークシート(「この新聞記事を読んで、さらに知りたいことは何ですか。また、疑問に思うことは何ですか。」)から検証する。資料5は、生徒の書いた内容である。

この内容を見ると、第1回目は新聞記事に書かれている内容を取上げ、「なぜ消費税を上げないといけないのか」(U. S君)、「なぜ、大胆な行政改革のあとに、消費税を上げるのか」(T. Y君)、「どうして高速道路の料金を引き下げようと思ったのか」(Y. Mさん)といったものが多い。これらは、新聞記事をよく読んだり、他面にある用語の説明や解説記事を読んだりすれば、分かることである。

第3回になると、「支持率を上げるには、どのような改革をすればよいのか」(U. S君)、「支持してもらうには今からどんなことをしていかなければならないのか」(K. Rさん)、「支持率を上げるのためにこれからどのようなことをするつもりなのか」(Y. Mさん)といった内容があらわれる。今後のことに対し課題意識を持ち始めたことが分かる。また、「『どちらもダメ』という意見の人は、どうすればよくなると考えているのか」(I. Eさん)、「麻生首相も小沢代表も首相に向いていない、と思うのなら、だれが首相になることを望んでいるのだろうか」(M. Yさん)、「今、国民が首相に何を求めているのかを知りたい」(M. Yさん)のように、さらに調べてみたい(知りたい)という課題意識も持っていることも分かる。

以上の検証から、少しでも多くの生徒が新聞を読むようになり、そして社会に対する関心を高めるために、今回の取り組みは有効であったことがわかる。

6 おわりに

今回の取り組みは、少しでも多くの生徒が新

聞を読むようになり、そして社会に対する関心を高めるために、有効であった。しかし、次のような問題も明らかになった。

- ① 新聞を「ほぼ読まない」生徒が、まだ51.5%存在する。これは全国平均と比べ、多い値である(「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」では、平日1日平均「0分」が50.3%)。
- ② 新聞を、1日平均15分以上読む生徒が少ない。これは全国平均と比べ、少ない値である(「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査報告書」では、平日1日平均「15分以上」が15.4%、2005年度「NIE効果測定調査」結果報告でも、NIE実践前の中学生で、1日平均「15分以上」が15.3%)。
- ③ 社会に対する関心を高め、課題意識を持つことができたとはいっても、自らその課題を追究しようとする生徒を育てることはできていない。

今後、これらの課題を少しでも解決するためにも、多くのNIE推進協議会の委員の方々や教育関係の方々から、ご批評を賜りたいと思う。

註

- 1) 浜野崇好「新聞離れ雑感」(宮崎県NIE推進協議会『平成19年度宮崎県NIE実践報告書』2008年)1ページ。
- 2) 内閣府政策統括官「第7回世界青年意識調査結果概要速報」2004年、58~61ページ。
- 3) 前述の「NIE効果測定調査」結果報告で、「新聞活用の難しさ」として「児童・生徒には新聞が難しい」という項目が、上位に挙がっている。新聞を「ほぼ読まない」生徒が多い本校生徒に、スクラップブックの作成や、新聞記事をもとに意見文作成といった取り組みをしても、生徒がこの取り組みを続けることが難しいと考えた。
- 4) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2008年、17ページ。